セネガル 初等教育算数能力向上プロジェクト

Projet d'Amélioration des Apprentissages en Mathématiques à l'Elémentaire Phase 2
(PAAME 2)

プロジェクト概要

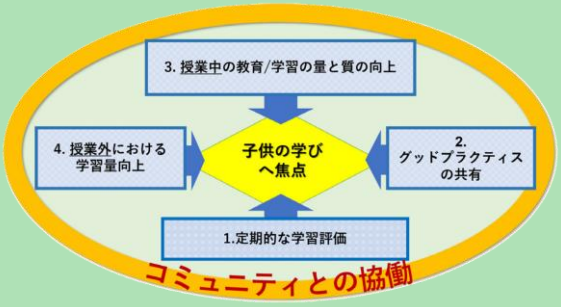
- ◆ **実施期間**　2020 年 11 月 ～ 2025 年 11 月
- ◆ **対象科目**　初等算数
- ◆ **対象地域**　全14州（16 州教育局：IA）
  公立小学校（9,600 校）
- ◆ **受益者**　校長・教員 50,500 人
  小学 1 年 ～ 6 年生児童 約 236 万人

現 状　基礎的な算数能力を習得できていない児童が6割

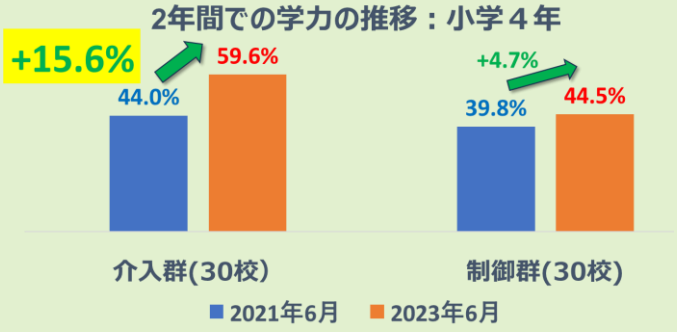
セネガル政府は、2030 年までに「小学校卒業時、80%の児童が読み書き計算に係る最低限の能力を持つ」ことを目標にしている。しかしながら、2021年では**小学４年生の 58% が、算数の基礎学力の標準レベルに達していない**のが現状であった。また授業観察の結果、どの授業も教員の説明時間が長く、児童が演習する時間がほとんど確保されないまま授業が終わってしまっていることが分かった。

仮 説　質の高い練習問題を数多く解き、教員が児童の理解度を効果的に評価することによって学力が向上する

演習時間の確保なしでは、基礎学力の定着は困難である。PAAMEでは児童の学びの質・量を向上するために必要な**４つの柱**を掲げ、**コミュニティとの協働**がそれらの活動の継続的な実施を支える体制をとる。これらの４つの柱の中でも主体となるのが**ワークブックの導入**であり、この教材を使って60分授業の後半 30 分で効果的な演習を行う。これらの活動を PDCA サイクルで組織的・持続的に実施するシステムを実現するのが PAAME モデルである。



成 果　２年間の介入の結果、児童の学力が大きく向上



「他の学校の子にもワークブックを勧めたい。**毎日いろんな問題を解けて、すごく分かるようになる**から。」
（Mbour 県の小学６年生）

プロジェクト目標

「算数学習改善モデルの持続的な実施により、子供たちの算数学習の質が改善する」

達成のための4つの柱とアプローチ

1 定期的な学習評価

既存の定期試験を**「学習評価サイクル」として組織化**している。試験実施とその度の結果分析、改善計画の作成・実施を組み合わせることにより、**児童が躓いている学習項目を教員が確認し、授業計画を調整**することによって児童の学習の質が向上する。また、この結果を保護者やコミュニティと共有し、コミュニティとの協働を促進する。

2 グッドプラクティスの共有

優良事例として共有された WhatsAppメッセージの例

「ワークブックにカバーを装着することで、児童が自宅での自習時にも教材を保護し、長持ちできるようにしていた。」

クラスター研修、校内研修といった対面の研修により学ぶことに加え、WhatsAppグループで優良事例を共有することによって、**幅広い関係者間での学び合い**を促す。

3 授業中の学習量と質の向上

授業目標・進度、そして児童の学力にあった良質な練習問題を掲載し、授業後半 30 分にこれらの練習問題を解く時間に充てるというスタイルの定着を図る。圧倒的に不足していた**「手を動かして取り組んでみる」時間を毎授業で確保**することによって児童の学力向上を図る。

4 授業外における学習量向上

ワークブックを使用した補習授業をコミュニティとの協働によりボランティアが実施。セネガルの小学校では月・水・金曜の午後に授業がないため、これらの時間を利用して週２～４時間行うことによって、授業外での学習量を増やす。

コミュニティとの協働

上記 4つの柱に加え、**保護者と地域住民、行政が定期的に集まり**、児童の学びの支援に必要な取り組み（放課後学習支援ボランティアや文具の購入、定期試験の実施支援など）について話し合い、約束し合い、ともに実行していく**「みんなの学校」のアプローチ**を通じて、学校とコミュニティとの協働による持続的な学びの改善を支援している。